

第3章

まちづくり基本方針

第3章 まちづくり基本方針

平成28年度にまちづくりワークショップで取りまとめた「みんなの想い」を基礎とし、これまでの地域意見、民間事業者ニーズをもとに、地域協議会及び検討委員会、社会実験(P54参照)の結果などを踏まえ、まちづくり基本方針を整理しました。なお、将来的には、篠路地区を含め日本全体として大幅な人口減少が予測されており、数十年先も見据えた方向性を考えることが重要です。

人口減少は、生活関連サービスの縮小などによる生活利便性の低下、住民組織の担い手不足による地域コミュニティの低下などが懸念され、さらなる人口減少を招く悪循環も想定されます。したがって、「人口減少局面でも豊かで持続的なまち」と「地域の魅力・コミュニティが発展するまち」の実現したいまちの将来像2つを長期的に目指していくことが求められます。

以上を踏まえたまちづくり計画の体系を示します。



3-1 基本理念

誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち

子どもたちも、若い方も、子育て世代も、高齢者も、誰もが「篠路に暮らしてよかったな」と感じ、安心安全で、笑顔があふれる元気で愛情いっぱいのもち。そんな篠路を目指します。

3-2 目指すまちの将来像と6つの視点

基本理念である「誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまち」を踏まえた、目指すまちの将来像と6つの視点を以下に掲げます。

(1) 目指すまちの将来像

目指すまちの
将来像①

『暮らし』を
支えるまち

ある篠路の暮らしをより豊かにしていくため、高齢化が進む中で、今住んでいる人が安心して暮らし続けられるまちづくりが必要です。生活を支える都市機能が確保され、日常的な交流・活動の場が生まれ、支え合えるまちづくりを目指します。

目指すまちの
将来像②

『つなぎ』を
紡ぐまち

篠路には開拓の歴史、篠路歌舞伎や藍染などの伝統・文化など、伝えていくべきものがたくさんあります。また、旧琴似川沿いの緑道や五ノ戸の森緑地などの豊かな自然景観も地域の魅力の一つです。それらを地域の人に伝え、地域の人でも地区外の人でも歩いてみたくなるまちを目指します。

目指すまちの
将来像③

『魅力』を
想像するまち

街並みや、篠路ならではの新しい取組で魅力を創造し続けることで、今後、住宅地として若い世代を惹きつけられるようなまちづくりを目指します。

(2) 6つの視点

① 住まいを豊かにする



生活利便性の高い良好な居住環境の形成や、世代を超えたつながりづくり、暮らしを助けるコミュニティづくりなど、新しい交流機会の創出により、「住まいを豊かにする」まちづくりを進めます。誰もが安心・安全に暮らせるまちづくりを目指します。

② にぎわいをつくる



多様なイベントや、魅力的な店舗・サービスにより「にぎわいをつくる」ことで日常生活に彩りを加える取組を進めます。取組は地域内で多様な関係者が連携しながら行えるような、新たな仕組みづくりを目指します。

③ まちの資源を活かす



これまで篠路が積み重ねてきた歴史や文化を体験・伝承する機会の創出や、地域の情報の積極的な発信など、「まちの資源を活かす」ことで地域の人・モノ・情報を繋ぎます。また、新たな地域住民にも気軽に情報を知ってもらうため、新たな手段やツールなどの活用も重要になります。

④ 回遊性をつくる



誰もが歩きたくなる環境づくりや、地域内外のアクセス性の向上など「回遊性をつくる」ことで、気軽に外出したくなるような仕組みづくりを目指します。

⑤ 土地利用や街並みを考える



適切な土地利用や、これからの篠路を象徴するような魅力的な景観づくりなど、「土地利用や街並みを考える」ことで、住宅地である篠路に相応しい新たな空間や景観の形成を目指します。

⑥ まちを活用する活動



多様な活動により、使い切れていない既存の場所やこれから基盤整備により生み出される空間を最大限に活用する「まちを活用する活動」を行うことで、多世代が集い、生き生きと遊び・学び・交流できる場づくりを目指します。

3-3 まちづくり重点エリア

基本理念、目指すまちの将来像、まちづくり基本方針を踏まえ、篠路駅周辺地区を以下のように捉え、まちづくり重点エリアの方向性を整理します。

(1) エリア全体の方向性

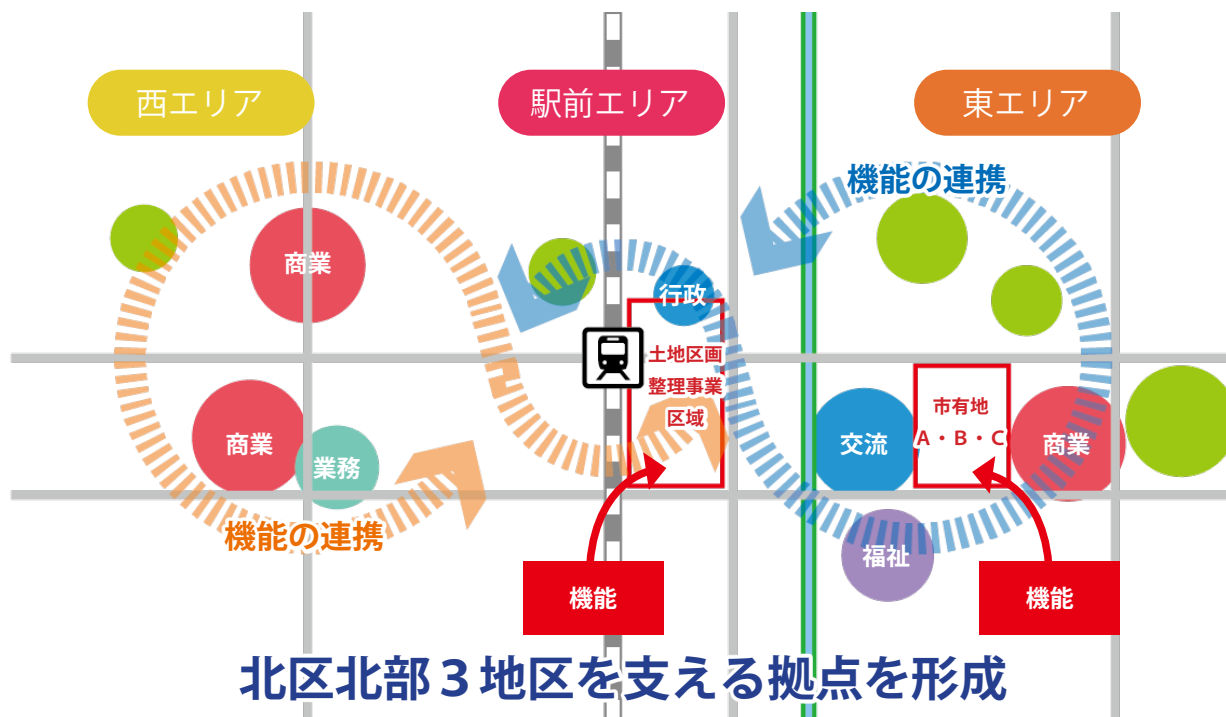


図 エリアの方向性

篠路駅周辺地区は第1章1-5まちづくり重点エリアでも整理したように、交通網や都市機能配置の現況などから3つのエリアで捉えることができます。一般的な拠点は機能が集中していますが、周囲に住宅街が広がり、かつ、南北軸を中心とした公共交通網が形成されている篠路駅周辺地区の将来像を見据えたまちづくり（歩いて暮らせるまちづくり）には、3つのエリアに日常生活を支える機能をバランスよく配置し、東西一体の拠点を形成することが必要です。

また、篠路駅周辺地区は、鉄道高架事業による東西市街地の分断解消をはじめ、自由通路整備、歩道拡幅、バリアフリー化等により市街地の移動円滑化が図られ、東西エリアと駅前を結ぶ地区住民の生活動線や来街者の回遊性向上が期待されます。これにより、3つのエリアの機能が連携することで、「暮らし」を支え、「つなぎ」を紡ぎ、「魅力」を創造する、北区北部3地区をけん引する地域交流拠点の形成を図ります。

東西エリアの中心となる駅前エリアについては、駅前にふさわしい顔づくりを積極的に行います。

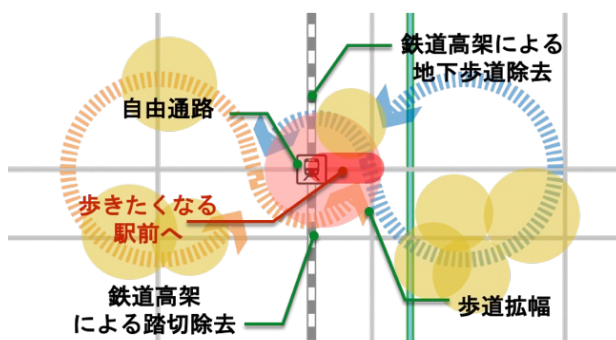


図 回遊性向上のポイント

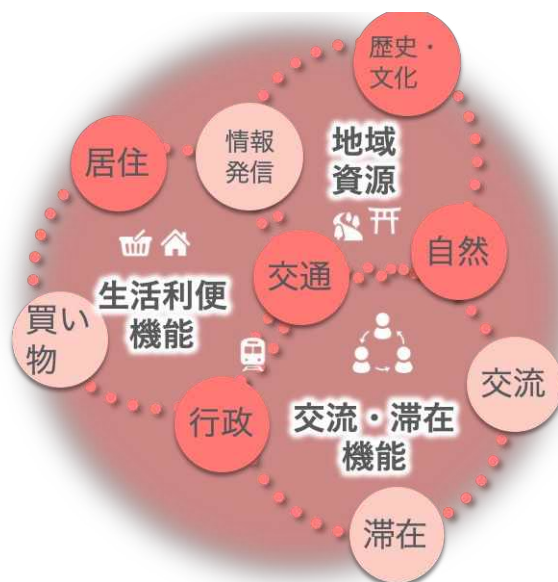
(2) 各重点エリアの方向性

1) 駅前エリア

駅前エリアは篠路駅や篠路出張所などの機能を備え、北区北部3地区の行政機能の中心となっていますが、気軽に立ち寄れる施設が少なく、駅周辺の利便性・魅力の向上が求められています。

また、地域の拠点として、子育て世代やアクティブシニア、若者など地区内に住む多世代が多様に交流できる場が期待されています。社会基盤整備等より創出される新たな空間を活用しながら、地域のにぎわい創出に寄与する交流・滞在が可能な環境づくりに努めます。

地区内には篠路神社や篠路歌舞伎・藍染など、今後も継承すべき歴史資源や文化、旧琴似川などの自然景観が存在しています。これらの地域の資源を活かした活動・取組により魅力的な駅前づくりを目指します。



駅前エリアのコンセプト

暮らしに必要な機能と人々の交流機能により
魅力的な駅前を演出

駅前エリアに求められる役割

- 生活利便施設などの立地により、駅周辺の利便性を向上
- 地域のコミュニティ形成に寄与する交流空間を創出
- 地域の資源を活かした活動・取組の醸成



利便・交流ゾーン

2) 東エリア

東エリアには商業施設、高齢者施設や児童養護施設など多様な施設が立地し、日常的な活動が行われています。

人口減少が予測される中、今後も篠路駅周辺地区が豊かで持続的なまちとなるためには、地域の活力が重要であり、継続的な人口流入と活発な活動につながる機能が必要です。

また、当該エリアは横新道や篠路通により広域からのアクセスが良好で、大規模な市有地を有するなど、多様な機能集積の可能性があります。接道条件等のエリアの特性を踏まえ、地域の魅力と多様な活動や生活の受け皿となるまちづくりの展開を検討します。

なお、周辺が住宅街であること、高齢者施設や児童養護施設などの福祉機能が既に立地していることから、まちづくりの推進にあたっては、既存の機能との連携や調和に配慮します。



東エリアのコンセプト

多様な機能の集積により多くの人々が活動し、
地域の活力源となるエリア

東エリアに求められる役割

- 住みたくなる・住み続けたいまちとなるための魅力の創出
- 多様な活動と生活の受け皿となり、地域の活力を向上



にぎわい・交流・福祉・複合ゾーン

3-4 地域主体のまちづくり活動の方向性

(1) 多世代が交流する笑顔あふれるコミュニティを創出する

良好な住環境を持続するためには、地域が主役の活力あるコミュニティをつくることが重要です。

駅前街区や市有地の利活用による新たな公共空間や、篠路に多く存在する公園や空き地等をうまく活用しながら多世代が交流できる、笑顔あふれるコミュニティづくりを目指します。

コミュニティづくり



地域にある多様な場所を有効活用

(2) 既存資源を有効活用する

篠路には地域を象徴する篠路神社や、藍染や歌舞伎の文化など他地区に誇れる地域資源がたくさんあります。

また、自然や緑の景観があることも特徴であり、旧琴似川沿いの緑道やコミュニティガーデン、五ノ戸の森緑地などの豊かで美しい緑の環境が地域の力で守られています。それらの地域資源の魅力を共有できる方法を検討していきます。

駅周辺地区の地域資源



(3) 持続できるまちづくり体制を構築する

地域主体のまちづくり活動を持続させていくには多様なアイデア・多様な担い手が必要不可欠です。そこで、現在地域で活躍している方々との連携と学生、子育て世代、アクティブシニア、新たな担い手の発掘を目指します。

そして、地域住民が、新たな担い手も、篠路駅周辺地区に関わりやすい、まちづくり体制の構築を目指します。

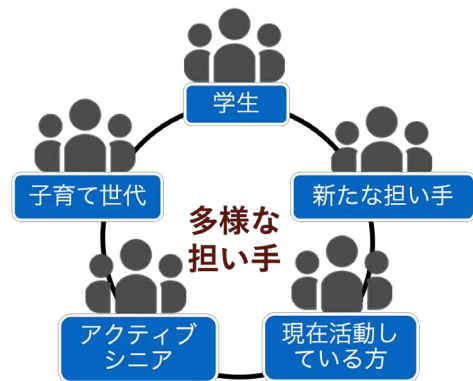
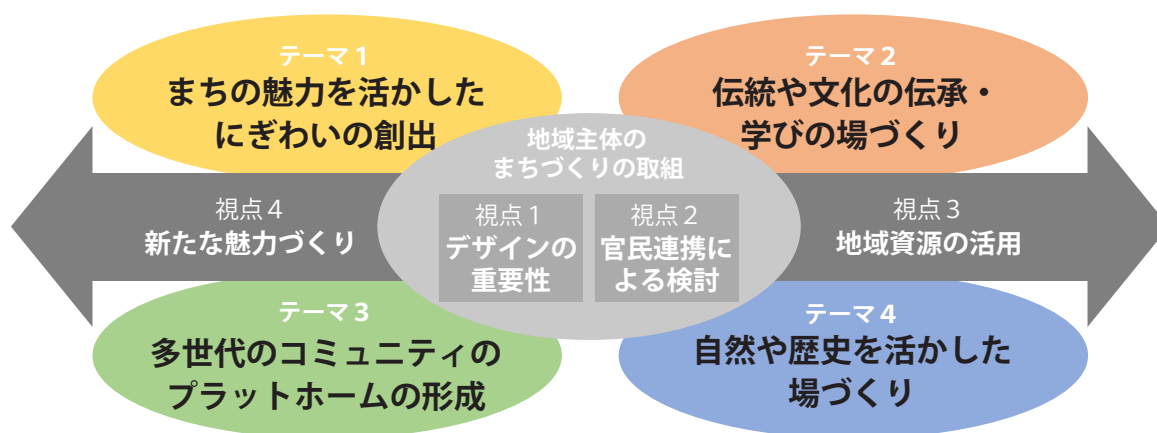


図 多様な担い手

【活動・取組イメージ】

3つの地域主体のまちづくり活動の方向性を踏まえ、活動や取組のイメージを次の4つのテーマと視点で整理しました。



各テーマごとの取組イメージ

テーマ1
まちの魅力を活かした
にぎわいの創出

マルシェでの広場活用 夏祭りでの広場活用

[取組例]

- ・ キッチンカーなどの飲食
- ・ マルシェや朝市などの物販

など

テーマ2
伝統や文化の伝承・
学びの場づくり

篠路子ども歌舞伎 藍染ワークショップ

[取組例]

- ・ 篠路歌舞伎の活動風景の公開（伝承）
- ・ 藍染ワークショップ

など

テーマ3
多世代のコミュニティの
プラットフォームの形成

多様なコンテンツによる交流の場づくり

[取組例]

- ・ 絵本や雑誌などが読める場
- ・ 親子で楽しめるワークショップ

など

テーマ4
自然や歴史を活かした
場づくり

緑道の活用

[取組例]

- ・ 河川空間の活用
- ・ 自然や歴史を伝えるウォーキングツアー

など

3-5 北区北部3地区の地域交流拠点としての役割



(1) 北区北部3地区の現況

【地区内の移動に関する現況】

パーソントリップ調査^{※5}によると、北区北部3地区の移動の特性は、平日は3地区共に地区内移動を基本として、隣接する太平・百合が原地区から篠路・茨戸地区、拓北・あいの里地区から篠路・茨戸地区への移動が多く見られます。休日は、平日と同様の移動に加えて北区の他地区や東区への移動が増加しています。

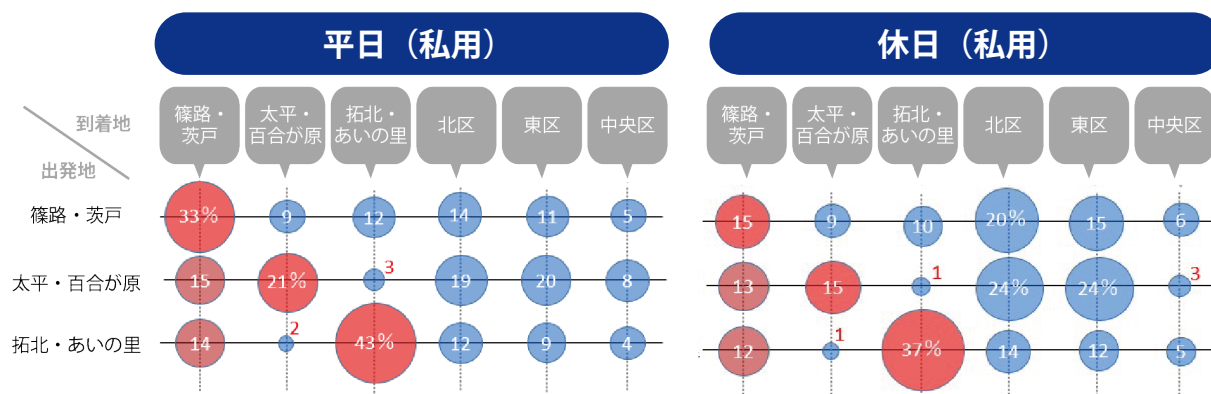


図 地区間の移動 (H18 パーソントリップ調査)

【地区内の人口特性】

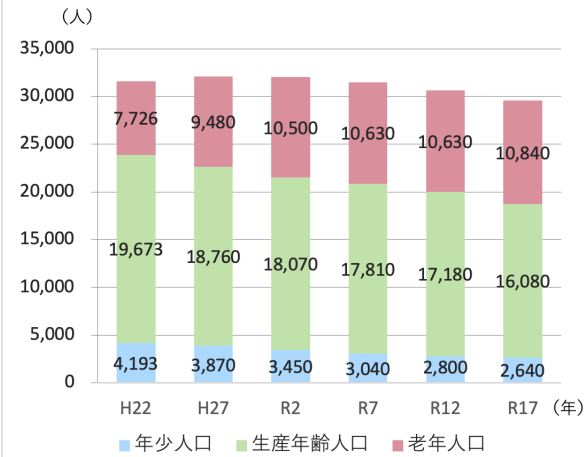
将来人口推計の令和2年から令和17年の75歳以上割合の変化を比較すると、篠路・茨戸地区は1.38倍、太平・百合が原地区は1.44倍、拓北・あいの里地区は2.00倍となることが予測されています。高齢者の増加に伴い自動車利用の減少が予測され、公共交通の重要性、歩いて暮らせるまちづくりの重要性が高まると考えられます。

高齢者にとって生活に必要な食料や日用品の買い出しは重労働であり、徒歩の場合、まとめ買いすることは難しいため、必要なときに必要な分だけ買いに行けるよう、公共交通のアクセスが可能な場所に商業・生活利便機能等の機能集積が必要です。

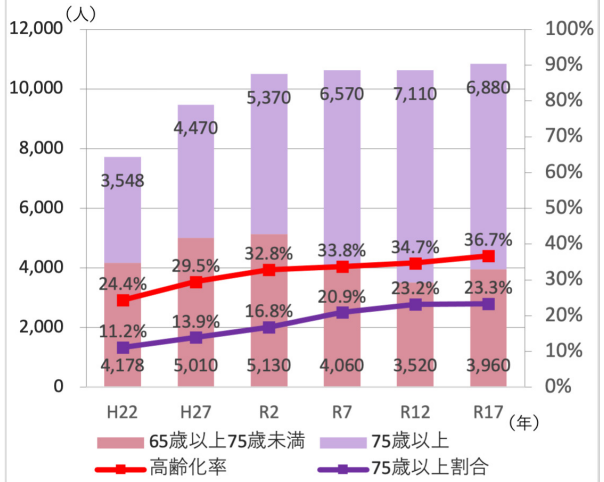
※5 パーソントリップ調査…「どのような人が、いつ、どこからどこへ、どんな目的で、どんな交通手段で移動しているか」を把握することを目的とした調査です。パーソントリップ調査では、札幌市を中心に、通勤・通学や買い物など交通面でつながりの強い地域を「道央都市圏」として調査対象範囲を設定しています。

篠路・茨戸地区

人口構造・推計人口

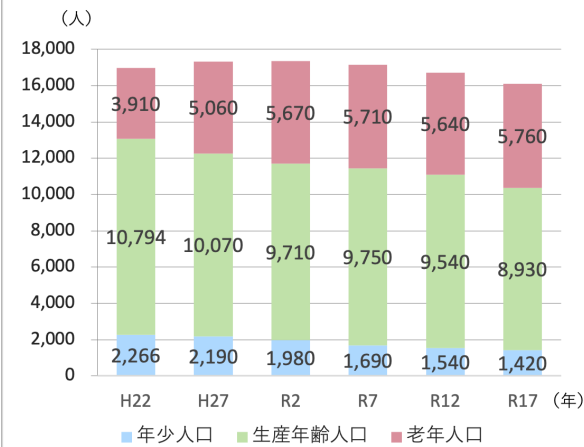


高齢化の状況

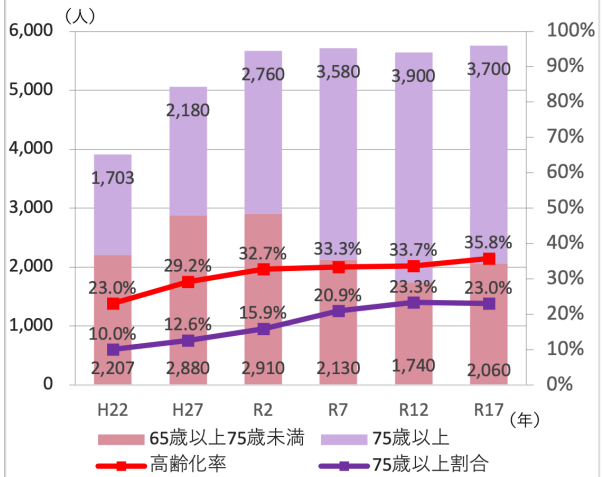


太平・百合が原地区

人口構造・推計人口

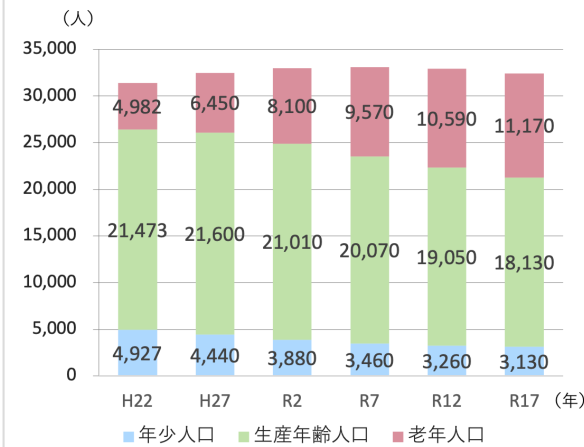


高齢化の状況

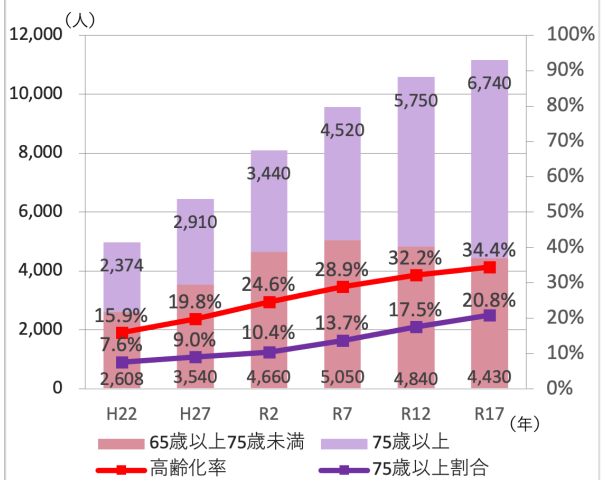


拓北・あいの里地区

人口構造・推計人口



高齢化の状況



出典：将来推計人口に基づく地域分析調査（平成26年10月）

図 北部3地区の人口と高齢化の状況

【地区内の土地利用・施設立地の状況】

札幌市立地適正化計画の都市構造評価（人口、施設動向、生活利便性、健康・福祉、安全・安心、地域経済の6つの評価分野について解析を行ったもの）によると、北区北部3地区は戸建住宅中心の住宅街で、身近な生活を支える生活利便機能は3地区とも充足しています。

太平・百合が原	篠路・茨戸	拓北・あいの里
【3地区共通】		
<ul style="list-style-type: none"> 3地区いずれも、戸建の多い郊外住宅地 高齢者・福祉施設や保育園・幼稚園及び高齢者・子育ての交流機能は3地区とも複数立地 一般病院は各地区に1～2施設立地、3地区とも診療所やクリニックは生活圏に複数立地 		
<ul style="list-style-type: none"> 商業施設は太平駅から徒歩圏内に立地 	<ul style="list-style-type: none"> 商業施設は篠路駅から徒歩圏内に立地 	<ul style="list-style-type: none"> 大型商業施設があいの里教育大駅前に立地
【3地区共通】		
<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティ施設はそれぞれに立地 		
<ul style="list-style-type: none"> 地区住民のコミュニティ活動拠点となる地区センターが立地 	<ul style="list-style-type: none"> 区役所、区民ホールを補完する出張所、コミセンが立地 	<ul style="list-style-type: none"> 地区住民のコミュニティ活動の拠点となる地区センターが立地

(2) 地域交流拠点としての役割



図 北区北部3地区のまちづくりの考え方

地区内の現況、人口特性や土地利用、施設立地の状況を踏まえると、北区北部3地区と公共交通で結ぶ駅前・東西エリア一体の拠点形成と社会基盤整備による東西市街地の移動円滑化は、北区北部地区の持続可能なまちづくりにつながります。